

倉敷管弦楽団

KURASHIKI ORCHESTRA

第52回定期演奏会



2026年 9月6日 日
14:00 開演 (13:00 開場)
倉敷市民会館ホール

主催：倉敷管弦楽団 共催：倉敷市文化連盟 助成：公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団

後援：岡山県、倉敷市、(公財)岡山県郷土文化財団、(公財)倉敷市文化振興財団、
山陽新聞社、RSK山陽放送、OHK岡山放送、KSB瀬戸内海放送

祝 辞



倉敷市長
伊東 香織

倉敷管弦楽団第52回定期演奏会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

倉敷管弦楽団の皆様は、菊池東団長のもと、岡山県を代表するオーケストラとして、定期演奏会や倉敷音楽祭など数々の舞台で美しいハーモニーを響かせてこられました。長きにわたり本市の音楽文化を豊かに育み、彩り続けておられますことに、心より敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

本日の演奏会では、皆様のダイナミックで優美な演奏に加え、指揮者の中井章徳様、ホルン奏者の森博文様をゲストにお迎えし、壮大なスケールと美しい旋律が魅力のアントン・ブルックナー「交響曲第7番ホ長調WAB107（ノヴァーク版）」など、魅力あふれるプログラムが披露されると伺っております。出演者の皆様が磨き上げてこられた音色が会場に響き渡り、ご来場の皆様には心豊かなひとときをお過ごしいただけることと存じます。

結びに、本演奏会のご成功と、倉敷管弦楽団の今後ますますのご活躍・ご発展をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

ご 挨拶



倉敷管弦楽団 団長
菊池 東

本日は、第52回倉敷管弦楽団定期演奏会にご来場いただき、有難うございます。

倉敷管弦楽団は、皆様の温かい御支援のもと創立52年目を迎え、更なる飛躍を目指して今回の定期演奏会を企画しました。

さて52回定期に取り上げた曲目は、前半、ワーグナーの「ローエングリン」より第1幕への前奏曲と、R.シュトラウスのホルン協奏曲第1番です。

ホルン独奏に、くらしき作陽大学特任教授の森博文氏をお迎えし、久しぶりの管楽器の協奏曲といたしました。

後半はブルックナーの交響曲「第7番」。1時間を要する大曲です。滅多に聴く事の出来ない4本のワーグナーチューバが入り、ブルックナーのゆったりと流れる重厚なサウンドをお楽しみ下さい。

指揮者は、倉敷市出身の現在各地で活躍中の若手のホープ、中井章徳氏です。52年目にして初めて地元出身の客演指揮者を招いての定期演奏会となりますが、今回は時間を掛けてじっくりと細かい練習を積み上げてきました。倉敷管弦楽団の豊かなサウンドをお届けできれば幸いです。

どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみください。



プログラム

PROGRAM

リヒャルト・ワーグナー

歌劇「ローエングリン」より第1幕への前奏曲

Richard Wagner / Lohengrin Act I: Prelude

リヒャルト・シュトラウス

ホルン協奏曲第1番 変ホ長調 Op. 11

Richard Strauss / Horn Concerto No. 1 in E-Flat Major, Op. 11

🎺 ホルン独奏 森 博文 🎺

アントン・ブルックナー

交響曲第7番 ホ長調 WAB 107 (ノヴァーク版)

Anton Bruckner / Symphony No.7 in E major, WAB107 (Nowak edition)



指揮者 中井 章徳 Akitoku Nakai

指揮者・音楽博士。倉敷市出身。岡山県立岡山城東高等学校音楽コースを卒業後、くらしき作陽大学音楽学部および同大学院音楽研究科、桐朋オーケストラ・アカデミー、イタリア・キジアーナ音楽院で指揮を専攻。指揮を志賀保隆、大山平一郎、岩城宏之、リハルト・シューマッヒャー、ダニエレ・アジマン、ジャンルイジ・ジェルメッティ、下野竜也の各氏に師事。また、教会音楽をエクハルト・ワイアント、バロックダンスをユルゲン・シュラーベ、チェンバロをダミアノ・チェルッティ、ピアノを日高七恵、重川逸呼、声楽を森野啓司、黒岩典枝、山下敬子、蓮井求道、ヴィオラを川上昇、大島路子、トロンボーンを大塚博、音楽美学を高原景介、音楽学を丸山桂介、森泰彦、池上健一郎の各氏に師事。

1998年、ポーランドで開催された第21回マスタープレイヤーズ国際音楽コンクールで指揮部門最高位の名誉ディプロマ賞を受賞し、あわせて全部門の中から最優秀者に贈られるマスタープレイヤーズ大賞を受賞。2000年に倉敷市芸術文化栄誉章、2004年に第10回エネルギー音楽賞、2006年に山雲市市民文化賞、2015年に山雲市文化功労賞を受賞。

2010年、ミラノで歌劇《椿姫》を指揮してイタリア・デビュー。2023年12月には、イタリア・リヴォルノのゴールドーニ歌劇場で開催された「マスカーニ生誕160周年記念公演《カヴァレリア・ルスティカーナ》」の指揮者として招聘され、満員の聴衆をはじめ、オーケストラ、歌手、合唱団からも大きな信頼と称賛を得て公演を成功に導いた。2024年、京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士（後期）課程を修了し、博士号を取得。オーケストラ、吹奏楽、オペラの分野で広範なレパートリーを持ち、演奏・研究・教育を三位一体とした音楽活動に精力的に取り組んでいる。

これまでに札幌交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、岡山フィルハーモニック管弦楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、Osaka Shion Wind Orchestra、ブラスパラダイス大阪など、全国各地の楽団と共演を重ねている。

現在、出雲芸術アカデミー・出雲フィルハーモニック芸術監督、北九州シティオペラ客演指揮者、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者、イタリア学会会員。出雲観光大使も務めている。



ソリスト 森 博文 Hirofumi Mori

10歳よりホルンを始め、12歳でW.A.モーツァルト《ホルン協奏曲第2番》を演奏。高校在学中には熊本日日新聞社主催「学生音楽コンクール」において最優秀賞ならびに熊本市賞を受賞し、早くからその才能を示した。

くらしき作陽大学（旧・作陽音楽大学）に特待生として入学し、新田厚氏に師事。卒業後は旧西ドイツ・ニーダーザクセン州立ハノーファー音楽・演劇・メディア大学へ留学し、ヤン・シュレーダー氏の薫陶を受ける。ドイツ留学中はジャーマン・ブラスのマスタークラスに参加し、ワルター・ヒルガース氏、エンリケ・クレスポ氏のもと室内楽を研鑽。Niersteiner Waldhörnerの一員として活動するとともに、ヒルデスハイム歌劇場へ客演奏者として出演するなど幅広い演奏経験を重ねた。

1990年、九州交響楽団に入団。1993年より2017年まで東京フィルハーモニー交響楽団首席ホルン奏者を務め、同団のテレビ・ラジオ放送ならびに数多くの演奏会に出演した。さらに、チョン・ミョンフン、アンドレア・バッティストーニら世界的指揮者との録音にも参加し、数々の名演を世に送り出している。

また、日本を代表する金管奏者により結成された《侍BRASS》《BRASS HEXAGON》のメンバーとしても精力的に活動。BRASS HEXAGONのアルバム『Shalom』は音楽誌『レコード芸術』において「特選盤」に選出されるなど高い評価を得ており、金管アンサンブルの分野においても確固たる地位を築いている。

現在は国内外のオーケストラへの客演やアンサンブルなど幅広い演奏活動を展開しつつ、東京音楽大学ホルン科教授、くらしき作陽大学特任教授として後進の育成にあたり、日本の金管界の発展に寄与している。



コンサートマスター 澤田 しおり Shiori Sawada

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。同研究科在学中に藤科高原音楽祭賞、中部読売新人賞受賞。ヴァイオリンを石井志都子、室内楽を徳永二男、豊嶋泰嗣の各氏に師事。NHK交響楽団にエキ

ストラとして出演。レ・ミゼラブル等の東宝ミュージカルオーケストラに在籍。現在、岡山フィルハーモニック管弦楽団の団員として幅広く活躍中。

曲目解説

歌劇「ローエングリン」より第1幕への前奏曲 リヒャルト・ワーグナー (1813-1883)

リヒャルト・ワーグナーが1848年に完成させた歌劇『ローエングリン』。その「第1幕への前奏曲」は、彼の独創的な和声や色彩豊かな管弦楽法が凝縮された初期の最高傑作です。このワーグナーが生み出した革新的な響きは、本日のプログラムで演奏されるブルックナーの崇高な交響曲や、リヒャルト・シュトラウスの色彩豊かな管弦楽作品にもきわめて大きな影響を与えました。

《ローエングリン》は中世ドイツの聖杯騎士伝説を題材とした歌劇であり、この前奏曲は物語の核心にある「聖杯」の神聖な力を音楽によって象徴的に描いています。それまでのオペラのように劇中の旋律をメドレー形式で聴かせる序曲とは異なり、一つの心理的な流れを一曲の音詩として凝縮させている点が大きな特徴です。

音楽は、分割された高音域のヴァイオリンが奏でる、まるで天から光が降り注ぐような繊細で神秘的な和音から始まります。この静寂の中から現れる「聖杯の動機」が、木管楽

器から金管楽器へと徐々に受け継がれ、音楽は圧倒的な巨大なうねりを形づくっていきます。そして、まばゆいばかりの輝かしいクライマックスを迎えた後、波が引くように再び静寂の中へと消えていきます。

ワーグナー特有の豊かな和声と、無限に途切れることなく流れる旋律は、聴く者を中世の神秘的な物語世界へと自然に引き込んでいくことでしょう。

本日の演奏会の幕開けにふさわしい、清らかで崇高な響きを、どうぞ心ゆくまでご堪能ください。

ヴィオラ／東岡 慧人

初演：1850年8月28日

指揮：フランツ・リスト

楽器編成

フルート 3、オーボエ 2、イングリッシュホルン、クラリネット 2、バス・クラリネット、ファゴット 3、ホルン 4、トランペット 3、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、シンバル、弦五部

ホルン協奏曲第1番 変ホ長調 作品11 リヒャルト・シュトラウス (1864-1949)

リヒャルト・シュトラウスは後期ロマン派を代表する作曲家の一人で、交響詩の《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》作品28、《英雄の生涯》作品40や、オペラでは《サロメ》作品54、《ばらの騎士》作品59などで広く知られていますが、いずれの作品においてもホルンが印象的な役割を担っています。それもそのはず、父のフランツ・シュトラウス (1822-1905) はミュンヘンの宮廷管弦楽団の首席を務める優秀なホルン奏者であり、ホルンのための作品、《ノクターン》作品8、《ホルン協奏曲》作品9も残しています。そのため、幼少期からホルンには強い愛着を持っていたと伝えられています。この作品はリヒャルトが18歳の1882年に作曲が始められ、翌年1883年に完成されています。その年に、ホルン独奏を父フランツの弟子ブルーノ・ホイヤー、ピアノは作曲者自身によって、初めて公の場で演奏されました。

若きシュトラウスらしい瑞々しさと活力に満ちた作品で人

気も高く、多くのホルン奏者にとってモーツァルトのホルン協奏曲と並ぶ重要なレパートリーの一つとなっています。3つの楽章から成る比較的コンパクトな構成を持ち、切れ目なく演奏されます。

ホルン／西崎 大修

楽曲編成

第1楽章 Allegro 変ホ長調 4/4拍子 自由なロンド形式

第2楽章 Andante 変イ短調 3/8拍子 三部形式

第3楽章 Rondo Allegro 変ホ長調 6/8拍子

初演：1885年3月4日

指揮：ハンス・フォン・ビューロー マイニンゲン宮廷管弦楽団

ホルン独奏：グスタフ・ラインホス

楽器編成

独奏ホルン、フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 2、トランペット 2、ティンパニ、弦五部



交響曲第7番 ホ長調

アントン・ブルックナー (1824-1896)

オーストリアの作曲家アントン・ブルックナーは、19世紀後期ロマン派を代表する作曲家であり、卓越したオルガニストとしても知られています。敬虔なカトリック信者であった彼の作品は、オルガン音楽を思わせる壮麗な響きと、神への祈りや大自然への畏敬の念に満ちています。その壮大な交響曲は今日も世界中の聴衆を魅了し続けています。

作曲家としては長らく不遇の時代を過ごしたブルックナーでしたが、1884年12月、ライプツィヒで行われた本作の初演は大成功を収め、終演後には15分間にわたって拍手が鳴りやまなかったと伝えられています。本日演奏するのは、現在最も広く用いられている「ノヴァーク版」です。

本作の背景には、ブルックナーが神のように敬愛したり

ヒャルト・ワーグナーの存在があります。1883年初頭、第2楽章を作曲中だったブルックナーは、ワーグナーの死を予感し、強い不安にとらわれていました。数週間後、ワーグナーはヴェネツィアで急逝。ブルックナーは深い悲しみのなか、この楽章を“崇拜する師への葬送音楽”として完成させました。

その哀悼の象徴と言えるのが、本曲で使用される「ワーグナーチューバ」です。これはワーグナーが自身の楽劇『ニーベルングの指環』のために考案した特殊な金管楽器であり、ブルックナーは本作で初めて交響曲の編成に取り入れ、重厚で静謐な響きを与えました。

第1楽章:アレグロ・モデラート

弦楽器の静かなトレモロの中から、チェロとホルンが雄大で美しい主題を朗々と歌い始めます。霧の中から大自然や大伽藍が立ち現れるようなこの神秘的な開始はブルックナー作品を象徴する名高い導入部です。この主題には、友人が夢の中で口笛を吹いて聴かせてくれた旋律がもとになったという不思議な逸話も伝えられています。オーケストラが築き上げる長大なクレッシェンドは、大聖堂の空間が光と音で満たされていくような壮麗さを感じさせます。

第2楽章:アダージョ

荘厳な緩徐楽章です。冒頭、4本のワーグナーチューバと低音楽器が重厚なコラール(教会賛美歌風の和音)を奏で、深い祈りの世界へと誘います。悲しみが頂点に達した瞬間、ただ一度だけ鳴り響くシンバルとトライアングルは、暗闇に天上からの光が差し込むような、圧倒的な救済と解放感をもたらします。

第3楽章:スケルツォ

重厚な雰囲気から一転し、クラリネットとトランペットの動機と力強いリズムが躍動します。オーストリアの民俗舞曲を思わせる、素朴で生命力あふれる活気が広がります。

第4楽章:フィナーレ

軽快な主題に始まり、これまでに現れた様々な動機を想起させながら、壮大な統一へと向かいます。最後は全楽章を貫くエネルギーが集約され、圧倒的なスケールのホ長調で輝かしく全曲を締めくくります。

「ブルックナーの交響曲は長大で難解」と思われるかもしれませんが、しかし難しく考える必要はありません。オーケストラが描き出す壮大な音の建築と豊かな響きの世界に身を委ね、心ゆくまでお楽しみください。

(演奏時間 約70分)

ヴァイオリン／荒木 加英子

初演:1884年12月30日

指揮:アルトゥル・ニキシュ

ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団

楽器編成

フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、ワーグナーチューバ 4、トランペット 3、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、シンバル、トライアングル、弦五部



画像提供：Gebr. Alexander, Mainz

ワーグナーチューバについて

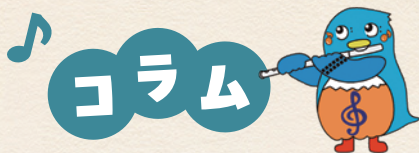
ワーグナーチューバは、リヒャルト・ワーグナーが自身の楽劇『ニーベルングの指環』のために、新たな音色を求めて編成に取り入れた楽器で、フレンチホルンよりも太く、チューバよりは細い円錐管で形成されています。低音を演奏するにもかかわらずマウスピースはホルンのものをそのまま使用し、ホルン奏者が演奏することを前提としているため、バルブは左手で操作するよう設計されています。変ロ調(B♭)のテナー(左側の画像)とヘ調(F)のバス(右側の画像)の2種類があり、通常、それぞれ2本ずつの4本セットで使用されます。なお、オーケストラの総譜にはワーグナーチューバという楽器名ではなく、テナーチューバとバスチューバと表記されています。そして、通常チューバと呼ばれる楽器は、コントラバスチューバと表記されています。

今回の演奏会でもワーグナーチューバは普段フレンチホルンを演奏している奏者が担当しています。ホルンの小さいマウスピースで演奏するため、演奏は非常に難しいといわれています。特に、ホルンの場合は右手をベルの中に入れて演奏するので微妙な音程調整を右手で行うことができ

るのですが、ワーグナーチューバの場合はベルが上を向いているため、それができません。さらに、第1楽章には登場せず、第2楽章の冒頭にいきなりワーグナーチューバ4本のアンサンブルを演奏(しかも、pで)しなくてはならないため、プレイヤーにとっては相当なプレッシャーだろうと思います。今回は4人のエキストラの方が演奏して下さることになっていますので、筆者は安堵しております(といっても、ホルンパートも結構大変です)。

画像を提供いただいたアレキサンダー社(Gebr. Alexander, Mainz)はワーグナーと協力してこの楽器を開発したメーカーの一つとして知られています。その楽器の素晴らしさに感動したワーグナーは、「ラインの黄金」に登場するワーグナーチューバによる四重奏部分の自筆譜をアレキサンダー社に贈呈しました。1996年に筆者がアレキサンダー社を見学を訪れた際、その楽譜がガラスケースに収められ、応接間に飾られていたのが強く印象に残っています。

ホルン／西崎 大修



リヒャルト・ワーグナーとアントン・ブルックナーの関係性

ブルックナーにとって、ワーグナーはまさに「音楽の神」ともいうべき存在でした。ワーグナーの革新的な音楽から大きな影響を受けながらも、それを単に模倣するのではなく、伝統的な交響曲の世界へと結びつけ、独自の音楽を築き上げていきました。二人の関係性は、大きく4つのポイントから見ることができます。

1 ワーグナーへの熱烈な敬慕

ブルックナーは1860年代、《タンホイザー》《ローエングリン》《トリスタンとイゾルデ》などワーグナーの作品に接し、その革新的な和声や管弦楽の響きから強い衝撃を受けました。

とりわけワーグナーの音楽に対する敬慕は非常に深く、ブルックナーにとってワーグナーは、生涯にわたって特別な存在であり続けました。

2 ワーグナーも認めたブルックナーの才能

1873年、ブルックナーはバイロイトのワーグナーを訪ね、自作の交響曲を献呈したいと申し出ます。ワーグナーはブルックナーの才能を認め、交響曲第3番の献呈を受け入れました。

この作品は、ワーグナーへの敬意を示す作品として、今日「ワーグナー交響曲」と呼ばれることもあります。

3 音楽的影響とブルックナーの独自性

ブルックナーは、ワーグナーから半音階的な和声や管弦楽法、壮大な音響世界など、多くの影響を受けました。しかし、その音楽が向かった先はワーグナーとは異なります。

ワーグナーが楽劇という新たな芸術世界を切り拓いたのに対し、ブルックナーは、そこから吸収した新しい響きを、ベートーヴェン以来の交響曲の伝統の中で独自に発展させました。

ワーグナーから大きな影響を受けながらも、あくまで「交響曲作家」として自らの道を歩んだところに、ブルックナーの大きな特徴があります。

4 ワーグナーへの敬愛が招いた苦難

19世紀後半のウィーンでは、ワーグナーの音楽や芸術理念をめぐる、激しい美学上の対立がありました。

当時のウィーン音楽界で大きな影響力を持っていた批評家エドゥアルト・ハンスリックは、ワーグナー派に批判的な立場にあり、ワーグナーを熱烈に敬愛していたブルックナーの交響曲にも厳しい批評を加えました。

ワーグナーへの敬愛は、ブルックナーに新しい音楽への扉を開く一方で、ウィーンでの作曲家人生に少なからぬ苦難をもたらすことにもなったのです。

本日の出演者 MEMBER

団長 菊池 東
インスペクター 原田 宗範
マネージャー 瀬尾 祥治
プレスオフィサー 西島 弥生

ライブラリアン 松本 喜紹
監事 山口 裕美 東岡 慧人
演奏会実施本部長 三宅 優美
ステージマネージャー ☆ 片山 征資

コンサートマスター

☆ 澤田 しおり

Violin I

岩瀬 裕子
釘宮 里奈
越宗 宣子
小林 敦夫
佐藤真理子
城野 崇彦
◎ 藤田 真理
正吉 豊久
丸山 博樹
三宅 郁子
森安 鋭子
渡邊 陽子

Violin II

小林 佐知
荒木加英子
◎ 奥山 晃子
菊池 東
串部 美幸
高谷麻理子
鳥越 悠斗
中川 雅美
中塚 えりか
新谷 敏子
平松 綾
柳井 典子

Viola

◎ 赤塚 佳代
片山佳央理
加來祥太郎
武本 克己
東岡 慧人
中塚 祐子
松江 靖子
宮本 菜月
安井 春香
吉田 典子
♪ 金子 剛
♪ 山下 徳美

Violoncello

松江 雄二
大西 智幸
鎌田 奈那
◎ 栗木由美子
黒田 正典
周藤 典子
辻田 順子
平松 玲子
松本 圭子
松本 喜紹
宮原 勅治

Contrabass

糸島 早苗
◎ 首藤 恵泉

本屋敷勝信

☆ 笠原 朋子
☆ 河本 直樹
☆ 林 環
☆ 三垣 慶覺

Flute

河村 香織
重松 里奈
◎ 月本 裕子

Oboe・English horn

瀬尾 祥治
◎ 羽井佐浩気
楨尾由利恵
三宅 優美
吉田 容子

Clarinet・Bass clarinet

西島 弥生
◎ 福島 恭子
松本美和子
三木 一弘

Fagotto

◎ 夏目 和歩
☆ 西牧 岳
☆ 西室 伸也

Horn

宇野 敏生
◎ 西崎 大修
宮地 喜子
♪ 富石 祐子

Wagner Tuba

☆ 東 奈優
☆ 武田 瑛
☆ 山下 咲希
☆ 横山 望実

Trumpet

原田 宗範
山口 博子
山口 裕美
山口 裕司
◎ 山崎 雄大(今回不参加)

Trombone

段王 美咲
樋口 仁
松田英一郎
☆ 木村 聡

Tuba

◎ 浅野 尚行

Percussion

陶山真紀子
◎ 関 暢子
長谷川清司

◎…パートマネージャー ☆…客演 ♪…団友

ご協賛いただいた皆さま、ありがとうございます。



公式マスコットキャラクター「くらっかん」

Music Support Owl
ミュージックサポートあうる

岡山市青江に新店舗
近日OPEN

トマト銀行 青江支店
えびのしや 青江店
国道2号線
国道203号線

【新店舗】
住所：岡山市北青江5丁目15-33
ムラマツ真真館ビル3F
TEL：086-441-1501
営業時間：11:00～20:00

【営業内容】
・管楽器・弦楽器・ピアノ
・修理・調整・販売
倉敷店も変わらず営業中

あかつか眼科クリニック

日帰り白内障手術 は当院で

〒710-0834
岡山県倉敷市笹沖 1328-1
tel.086-441-4660
akatsuka-ganka.com

診療時間 月火水木金土
午前 9:00～12:00 ○○○○
午後 15:00～18:00 ○●●○
●一火曜・水曜は 16:00～18:00
●土曜 木曜午後 土曜午後 日曜 祝日

至善堂駅
市役所西 倉敷市役所
総合市場 八雲町
ザ・ビレッジ
ココス
2 西口
●HONDA
エディオン ●ゆめタウン

世界15か国で
愛飲されている倉敷の美酒

燦然
さんぜん

菊池酒造株式会社 取締役会長 菊池 東

Instagram

燦然
大吟醸 山田錦 35 磨
燦然
純米吟醸 山田錦
木村式奇跡のお酒
純米大吟醸 日本万歳

中塚医院

内科・泌尿器科
皮膚科
訪問診療

通所リハビリ
居宅介護支援

倉敷市玉島黒崎 3911-1
TEL 086-528-0051

まさよし内科小児科クリニックは
地域の皆様の「家庭医」として
ご家族の健康をサポートいたします
西洋医学と漢方を上手に組み合わせて
未病のうちに治療いたします

院長・医学博士
正吉 豊久

医療法人 壽英会
まさよし内科小児科クリニック

〒712-8031
岡山県倉敷市福田町浦田2391
TEL：086-455-9848

(五十音順)

今後の演奏会

岡山県郷土文化財団 クラシックコンサート

in
高梁市

令和8(2026)年11月29日(日)
14:00開演(開場13:00)
高梁総合文化会館大ホール

入場料 一般2,000円 大学・高校生500円
※各当日500円増 中学生以下無料

プレイガイド 高梁総合文化会館、新見文化交流館

ゲストコンサートマスター 樋口利歌 指揮 菊池 東

(第1部)

- ◆シベリウス／交響詩「フィンランディア」作品26
- ◆チャイコフスキー／
バレエ音楽「白鳥の湖」より“情景”(第2幕)
バレエ組曲「くるみ割り人形」作品71a

(第2部)

- ◆チャイコフスキー／
ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23
- ピアノ 木口雄人

オーケストラ 団員募集

【急募】 コントラバス・ファゴット・ホルン

定例練習日 毎週月曜日19:00～21:30 練習場所 倉敷ふれあいの丘公園交流棟
団員資格 オーケストラ経験者で毎週の練習と定期演奏会に参加できること等
連絡先 楽団ホームページの「団員募集」のフォームからお願いします。